

S3-4 末梢循環不全，創傷治癒，難治性潰瘍 に対する高気圧酸素治療

徳永 昭¹⁾ 森山雄吉²⁾ 松田範子³⁾ 木山輝郎³⁾
田尻 孝³⁾

- | |
|-------------------------|
| 1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター |
| 2) 森山病院 |
| 3) 日本医科大学外科 |

慢性創傷（難治性潰瘍）の治癒促進に対する高気圧酸素治療のエビデンスとしてUHMSが発行した「Hyperbaric Oxygen 2003: Indications and Results, The Hyperbaric Oxygen Therapy Committee Report」は優れたエビデンス集である。一方，米国創傷治療学会（WHS）は，2006年に慢性創傷の治療の質向上にむけて治療ガイドラインを作成，発表した。慢性潰瘍で最も多い静脈性潰瘍，褥瘡，糖尿病性潰瘍および動脈性潰瘍の4分野ごとに専門部会をおき，それぞれが既存のガイドライン，Pubmed, MEDLINE, EMBASE, Cochrane Database of Systemic Reviews から論文を吟味し，公開討論会も開き検討し，報告した。その中では高気圧酸素治療の適否についても評価されている。今回はUHMSのレポートおよびWHSのガイドラインをもとに創傷治癒促進，難治性潰瘍（静脈性，糖尿病性，動脈性）に対する高気圧酸素治療のエビデンスと標準化について展望する。

S3-5 遅発性放射線障害に対する高気圧酸素治療

井上 治¹⁾ 佐村博範²⁾ 西巻 正²⁾ 大城吉則³⁾
小川由英³⁾ 伊良波史朗⁴⁾ 野崎浩司¹⁾
中村宏治⁵⁾ 久木田一朗⁵⁾

- | |
|----------------------|
| 1) 琉球大学医学部附属病院高気圧治療部 |
| 2) 同 第1外科 |
| 3) 同 泌尿器科 |
| 4) 同 放射線科 |
| 5) 同 救急部 |

【目的】高気圧酸素療法（HBO）は下顎骨などの放射線骨壊死あるいは放射線膀胱炎や腸炎に対し，他の治療法では得られない良好な臨床成績が報告されている。放射線照射はその他の骨軟部組織や臓器にも遅発性障害を来すが報告も少ないため，下顎骨および膀胱と腸管に対するHBOを主要な文献などから考察した。

【放射線骨壊死】Hart & Mainous (1976) が始めて臨床報告し，Davi & Hunt共著 (1977) ではHBOの骨形成促進作用の実験からHBOの有用性を説いた。2004年までに17編がUndersea Hyperb Medを始め主要な英文誌に掲載され，1論文のみ有意差を認めなかったがHBO回数が少なく，搔爬術までの期間が短いことが指摘されている。HBOは病巣搔爬などの術前20回，術後20回が主に行われ，本邦では2論文が確認できるが，人工歯根を照射壊死骨に植立することもあり，欧米並みの標準的治療の確立が必要と思われる。

【放射線膀胱炎と腸炎】放射線障害による出血性膀胱炎の報告は中田らから世界に発信され (1987年)，2005年には長期観察24例の宿題報告がなされ，われわれも23例を報告 (2005年抄録) した。欧米では主要な5文献における有効率60～80%から尿路変更を避け得る治療法として認められつつある。一方，放射線腸炎に対するHBOのまとまった報告はWooらの18例 (1997年) のみであったが，われわれは53例を報告 (2006年抄録) し，Marshallらが65例を報告 (2007年UHM誌) したことにより下血やイレウスに対する非侵襲的治療法として内外で注目されつつある。

【結論】口腔外科領域の放射線骨壊死に対するHBOは欧米では標準化された治療法がほぼ確立され，HBOの施行率も高いが，本邦では報告も少ない。放射線膀胱炎に対するHBOは本邦で始められ，欧米でも報告が増加している。放射線腸炎の頻度は決して低くはなく，HBOはさらなるエビデンスの蓄積が必要と思われる。